

松塩地区広域施設組合

管理者 松本市長 臥雲 義尚 様

提 言 書 (案)

新ごみ処理施設基本構想検討委員会は、令和3年4月から9月までの間、計6回の委員会を行い、新ごみ処理施設基本構想の、主に基本方針及び処理方式について議論・検討を行った。

特に処理方式について、最も時間を掛けて議論した結果、様々な意見が出された。

主な意見としては、次のとおりである。

- ▶ 灰を溶融することで、資源化や灰の減容化が図られ、最終処分場への負担が軽減する。
- ▶ 地元住民として過去の経過を見ると、現クリーンセンターでも採用されているストーカ式を採用し、灰の処分については、今後議論していけばよい。
- ▶ 構成市村の財政状況に鑑み、費用対効果が重視される中で、発電による売電収入は大変重要である。
- ▶ CO₂の排出削減や有効活用等により、ゼロカーボンについても積極的に考えていかなければならない。
- ▶ 立地上、自然災害、特に水害への対策が重要である。

本委員会としては、処理方式について明確な決定はしないが、出された意見を統合すると、「ストーカ式を基本とし、最終処分場の延命化に寄与する灰の資源化及び熔融化については、今後十分検討する」という方向性となった。

今後の処理方式選定にあたっては、本委員会が出された意見について十分考慮・検討し、「新ごみ処理施設基本構想」をまとめてもらいたい。

「新たな価値を創出する新時代のごみ処理施設を目指して」をテーマに、住民が誇れるようなごみ処理施設の建設をするよう、別添資料と合わせて提言とする。

令和3年9月30日

新ごみ処理施設基本構想検討委員会

委員長 荒井 喜久雄